



ハス（コイ科ハエジャコ亜科ハス属）
 コイの仲間でおイカワ、カワムツという魚に近い種類の魚。琵琶湖や淀川、三方五湖（福井県）が原産だが琵琶湖産アユの放流により日本各地に住んでいる。三方五湖のハスは側線りん数が45～54枚で琵琶湖の49～60枚より少なく、また琵琶湖のものとは遺伝的に違うため、貴重種といえる（福井県域絶滅危惧Ⅰ類）。

ハスプロジェクトのビジョン



◆ハスプロジェクトとは

福井県若狭町（旧三方町）には、「はす（魚時）川」という川があり、たくさんのハスが遡上してきたことから名付けられました。夏の「はす川」にはたくさんのハスが遡上し産卵したので、水面が盛り上がり見えたそうです。しかし…そんな「はす川」の風物詩は今ではもう見られず、それどころか、ハスの姿さえ見られなくなってきています。

実は三方五湖から消えてしまったか、消えつつある生き物はハスだけではなく、このように生き物がなくなった大きな理由として、湖の周りの湿地（水草が生えた水辺移行帯）の消失と水質悪化が挙げられます。湿地は、生き物たちの生活の場であり、子孫を増やす場でした。例えば、田んぼという湿地では、春から夏にかけて、フナ、ドジョウ、ナマズ、メダカの稚魚、7種類のカエルのオタマジャクシ、そしてトンボなどの水生昆虫の子どもたちで大賑わいでした。

若狭町（旧三方町）には1カ所だけ、かつての田んぼを思い出させてくれる場所があります。中山（地区名）のカヤ田です。この田んぼでは、フナ、ドジョウ、メダカ、6種類のカエルの子どもたちがいっぱい泳いでいます。この田んぼを保全することで日本の里地の原風景を後世に伝え、さらには三方五湖に再び生き物の賑わいを取り戻し、生き物と人間が賑わう水辺を復活させようと立ち上がったのが、ハスプロジェクトです。

◆ハスプロジェクト推進協議会とは

カヤ田の保全活動を通じて若狭地域における里地の原風景を後世に伝え、三方五湖に再び生き物のにぎわいを取り戻し、流域の自然と人間との共生をめざして、自然環境保全活動を行うことを目的としています。

主な活動は、（1）三方五湖流域の自然環境及びその保全対策に関する調査・研究活動（2）自然環境を中心とする環境教育活動（3）カヤ田をはじめとする三方五湖流域の自然環境の保全や復元に関する実践活動です。

（ハスプロジェクト推進協議会ホームページより）



カヤ田の田植え



三方五湖のめぐみ勉強会